平成25年6月13日
No. 13－125
株式会社 いよぎん地域経済研究センター

県内大学生の就職に対する意識について

～就職環境の見通しは厳しくも、4 割は就職する自信あり～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称 ＩＲＣ、社長 山崎 正人）では、このたび下記のとおり、県内大学生の就職に対する意識について取りまとめましたので、お知らせいたします。なお、詳細は、2013 年７月 1 日発行の「IRC Monthly」2013 年７月号に掲載いたします。

【調査概要】

大学生の就職に対する意識を把握するため、2013 年４月に県内大学生（愛媛大学法文学部「地域政策論」、松山大学経営学部「地域産業論」、松山大学経済学部「金融論Ⅰ」の受講生 378 名）を対象にアンケートを実施した。

記

【調査要旨】

1. 今春卒業した学生と比べて、自分たちの就職環境の見通しは、「変わらない」との回答が最も多く、次いで、「多少厳しくなる」となり、やや厳しい見方をしている。一方、就職する自信を就職環境の見通し別にみると、「厳しくなる（厳しくなる、多少厳しくなる）」と見ている学生でも、そのうちの４割の学生が就職できるだろうと考えており、それほど深刻には捉えていない学生もいることがうかがえる。
2. 就職する際に重視することを尋ねたところ、「重視する」「やや重視する」を合わせて最も多かったのは「経営が安定している」であり、次いで「将来性がある」、「給料がよい」となり、安定性を重視する学生が多い。
3. 就職後の働き方について、７割超の学生が「生活と仕事を充実させたい」と回答した。一方で、「キャリアアップのために転職を積極的に考えたい」「昇進昇格（出世）のために働きたい」といったキャリアを重視した働き方を選ぶ学生は少なかった。
4. 将来を考えて、資格などの取得を考えているか尋ねたところ、全体の３割弱が「すでに取得、または現在取得に向けて活動している」と回答した。また、半数近くの学生が、活動はしていないものの資格の取得を考えているようだ。

以 上

株式会社 伊予銀行 愛媛県松山市南堀端町１番地 〒790-8514 TEL(089) 941-1141

【アンケートの概要】

時　期：2013 年４月中旬

対　象：愛媛大学法文学部「地域政策論」、
松山大学経営学部「地域産業論」、
松山大学経済学部「金融論Ⅰ」の
受講生

方　法：教室でアンケート用紙を配付し、
その場で回収。無記名方式。

回答数：378 人

【回答者属性】

大 学	愛媛大学	51.6%	松山大学	48.4%
性 別	男性	54.5%	女性	45.5%
学 年	１回生	0.0%	２回生	16.4%
	３回生	65.9%	４回生	16.4%
	その他	1.3%		
出身地	愛媛県内	68.3%	四国3県	11.4%
	中国・九州	16.4%	近畿	1.1%
	関東	0.3%	その他	2.6%
住まい	自宅	43.8%	自宅外	56.2%

（注）集計は不明分を除く。また、四捨五入して表記しているため、内訳の合計が 100%にならないことがある（以下、同じ）。

当社では、県内大学生の就職に対する意識を把握するため、県内大学生を対象にアンケートを実施した。以下はその結果である。

１．就職に対する意識

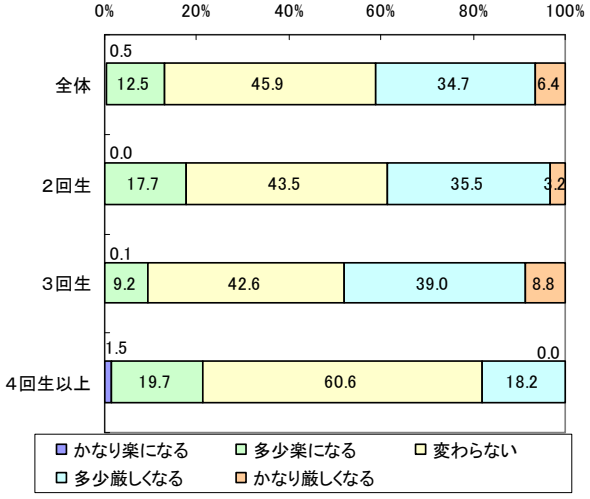
（１）就職環境の見通し・就職する自信

今春卒業した学生に比べて、自分たちの就職環境がどうなると思うか尋ねたところ、45.9%が「変わらない」と回答した。次いで、「多少厳しくなる」（34.7%）との回答が多く、就職環境の見通しはやや厳しい見方をしている。

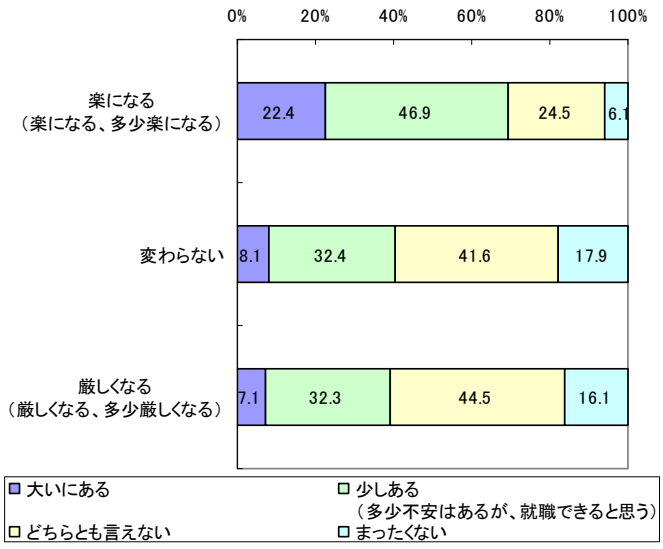
学年別にみると、実際に活動を始めている４回生以上では、６割が「変わらない」と回答しており、実感として今春卒業生との差を感じていないものと思われる。一方、２、３回生では、就職への漠然とした不安感が強いためか、慎重な見方をする学生が多いようだ（図表-１）。

就職する自信を就職環境の見通し別にみると、「厳しくなる（厳しくなる、多少厳しくなる）」と見ている学生でも、そのうちの４割の学生が就職できるだろうと考えており、それほど深刻には捉えていない学生もいることがうかがえる（図表-２）。

図表-1　就職環境の見通し（n＝377）



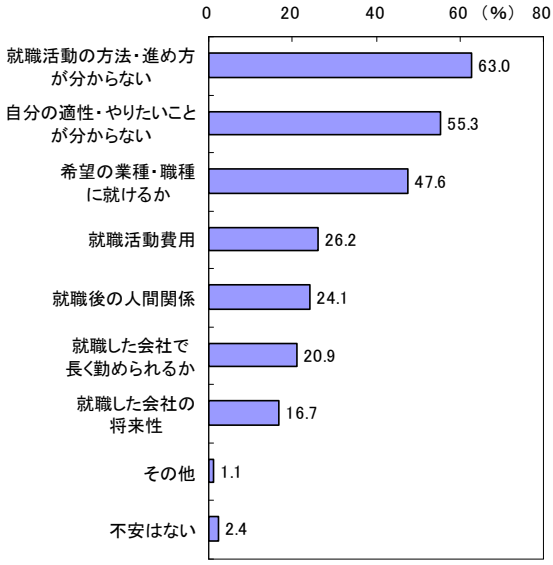
図表-2　就職環境見通し別　就職する自信（n＝377）



（２）就職に対する不安

就職に対する不安については、「就職活動の方法・進め方が分からない」（63.0%）との回答が最も多く、次いで「自分の適性・やりたいことが分からない」（55.3%）となった。やはり現段階では、就職後よりも就職前への不安が多く、就職活動全般に不安を抱いている（図表-３）。

図表-3 就職に対する不安
（n＝378、上位3つ以内で複数回答）

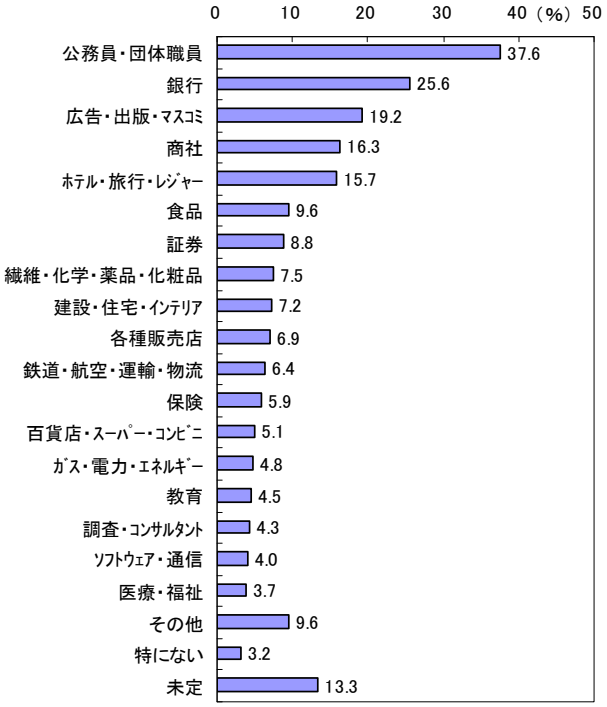


（３）希望業種・職種

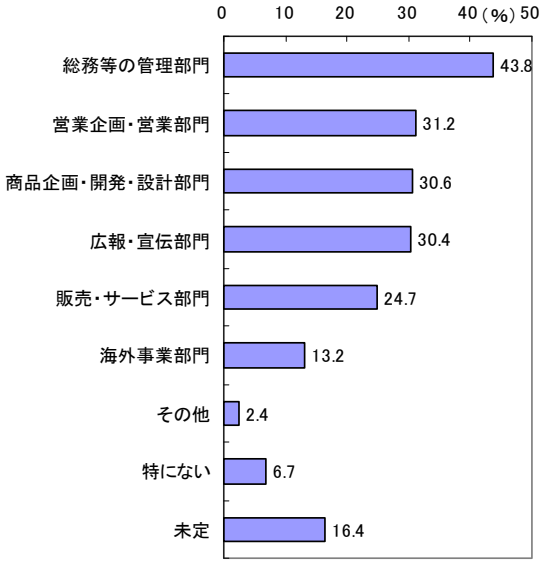
将来就きたい業種を尋ねたところ、最も多かったのは「公務員・団体職員」（37.6%）、次いで「銀行」（25.6%）、「広告・出版・マスコミ」（19.2%）となり、安定志向が強いことがうかがえる（図表-４）。

就きたい職種については、「総務等の管理部門」（43.8%）との回答が最も多かった（図表-５）。各大学や就職支援を行っている県若年者就職支援センターへのヒアリングでも、「管理部門のような事務職を希望する学生が多い」とのことであった。しかしながら最近は、事務職での採用は減少傾向であり、職種においてミスマッチが起きていると言えるだろう。

図表-4 希望業種
（n＝375、上位3つ以内で複数回答）



図表-5 希望職種
（n＝372、上位3つ以内で複数回答）

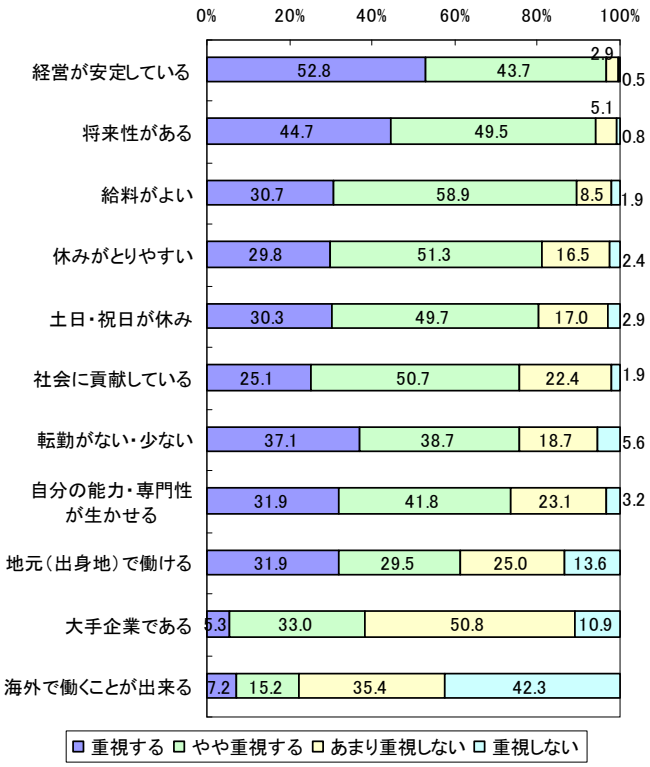


（４）就職する際に重視すること

就職する際に重視することを尋ねたところ、「重視する」「やや重視する」を合わせて最も多かったのは「経営が安定している」（96.5%）であり、次いで「将来性がある」（94.2%）、「給料がよい」（89.6%）となった。やはり、安定性を重視する学生が多い（図表-６）。

一方、「大手企業である」を重視する（「重視する」「やや重視する」）学生の割合は 38.3%であった。また、「海外で働くことができる」を重視する学生は約２割と、海外志向の学生は少なかった。

図表-6　就職する際に重視すること（n＝376）

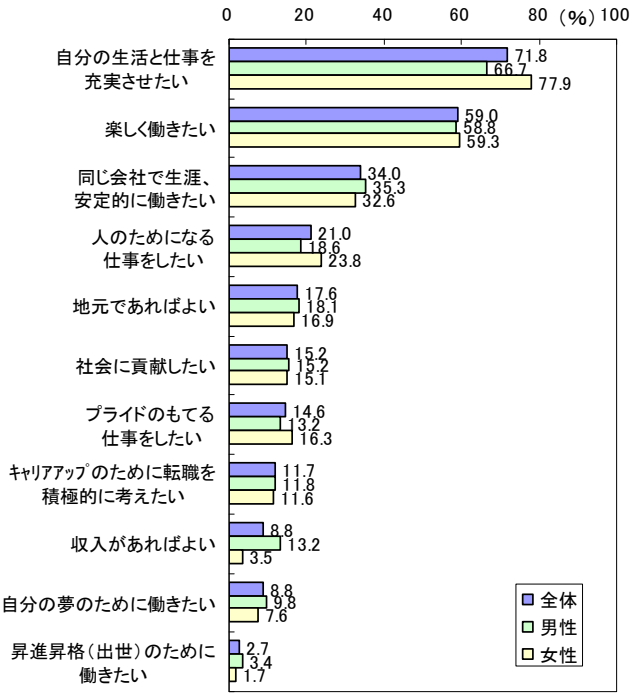


（５）就職後の働き方

就職後の働き方について、71.8%の学生が「生活と仕事を充実させたい」と回答した。特に、女子学生においては 77.9%で、男性よりも 10 ポイント以上高く、生活と仕事の双方の充実を望んでいる。次いで「楽しく働きたい」（59.0%）、「同じ会社で生涯、安定的に働きたい」（34.0%）と続く（図表-７）。ここ数年、若年層の離職率の高さが指摘されているが、終身雇用を望む学生は多いことがうかがえる。

一方で、「キャリアアップのために転職を積極的に考えたい」「昇進昇格（出世）のために働きたい」といったキャリアを重視した働き方を選ぶ学生は少なかった。

図表-7　就職後の働き方
（n＝376、上位3つ以内で複数回答）

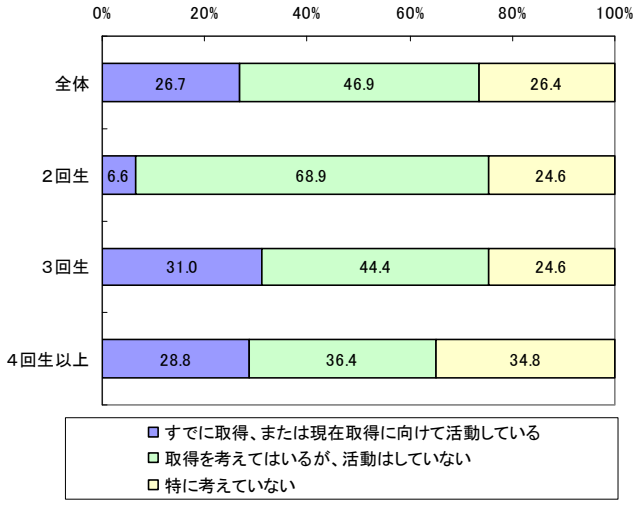


（６）資格取得について

将来を考えて、資格などの取得を考えているか尋ねたところ、全体の 26.7%が「すでに取得、または現在取得に向けて活動している」と回答した。また、半数近くの学生が、活動はしていないものの資格の取得を考えているようだ（図表-８）。

学年別にみると、２回生では実際に活動している学生は１割に満たないものの、３回生以上になると、約３割がすでに取得に向けた活動を行っている。資格の取得が就職に有利になるとは限らないが、就職活動に対する不安感からか、取得を考える学生は多いようだ。

図表-8 資格の取得（n＝375）



おわりに

就職に対する意識では、不安を抱えながらも自信を持っている学生が多いことが分かった。また、安定志向が強く、職種ではハードなイメージのある営業職ではなく、事務職、働き方ではバランスを考えるなど、無難な働き方を好む学生が多いのではないだろうか。

今後の就職環境の変化に伴う先行き不安のため、安定を望むのかもしれないが、まず幅広い視野を持ち、目標を明確にした上で、しっかりと自分と向き合って、入社後に後悔しない就職活動を行ってほしい。

（國遠　知可）